

会 議 録

内容承認	公開・非	<開催日>令和8年3月30日(月) <時 間>14:00~15:30 <場 所>岸和田市役所 新館4階 第1委員会室	<傍聴人数>2名 <傍聴室> 岸和田市役所新館4階 議会議室
新川会長	公開の別		
承認	公開		

<名称> 令和7年度第3回 岸和田市総合計画審議会

<出席者>委員 18名中 16名 ○は出席、■は欠席

新川	久	新井	齊藤	笠松	中川	奥田	沖藤	上月
○	○	○	○	○	○	○	○	■
浦田	太田	池田	山田	安田	鳥居	後藤	野路	赤塚
○	○	○	○	○	■	○	○	○

事務局) 総合政策部：西川部長

企画課：田中課長、中井主幹、高井主幹、吉本

<議題>

- 1 開会
- 2 基本計画における検討事項について
- 3 その他
- 4 閉会

<会議内容>

- 出席委員過半数以上のため、審議会成立を確認
- 次第2について事務局から説明
- 意見・質疑

【委員】

資料1の1ページ、No.7

従来の総合通園センター受入待機児童数に加え、幼児人口における発達相談実施率が新たに追加されている。項目自体に異論はないが、めざそう値の設定根拠と具体的な目標値が示されないとなかなかどうかの判断が困難であるため、その設定が現在検討されているか、また他の追加項目に具体的な数値があるかを確認したい。

【事務局】

基準値と目標値は決算後に各課において算出するため、現時点では提示できない。今回、項目設定案として提示しているのは、調査可能な項目や、第1期で考慮した視点に基づいたものである。

【会長】

めざそう値の基準値および目標値は、新年度にいろんな数値が確定した後に改めて検討することになる。

【委員】

今の話に関連して述べるが、KPI やみんなめざそう値は毎年度集計されており、今年度分は未整備でも、過年度データで傾向を見ながら議論はできるのではないかと考えている。あと、みんなめざそう値はアウトプットに相当し、目標を本当に達成したかどうかはアンケートや、

市民や関係者の動きの変化を観察すること、いわゆるアウトカムが目標に沿った形で得られているかで評価することになる。第2期では何をもってアウトカムとするのかを表記しても良いのではないかと。ここでは、みんなでめざそう値をどうするかということを議論しているが、第2期基本計画ではアウトカムをどう設定して評価するのか、ということも考えた方が良いのではないかと考えている。分量も多く、大変かと思うが、既存の指標がこれに対応すると言っても良いと思う。最近はこのアウトプット・アウトカムはよく使われるので、この審議会においても関係者に説明する上で対応づけができるようにしておいた方が良いと思う。

【事務局】

めざそう値については経過を踏まえて現状維持で良い項目は引き続き設定することとしている。指標の一部はアウトカムとなっているものもあると考えており、アウトプットとなる指標に対しては、今後そのアウトカムについて議論する必要があると考えている。

【委員】

資料1の1ページ、No.1

例えば、個別目標に「安心して子どもを産み育てられる」を掲げ、個別目標の方向性を「妊産婦や乳幼児の切れ目のない健康づくり」としており、今回は取組例に「専門機関をつなぐ」を追加している。対応するアウトプット指標として乳児死亡率と乳児のう歯保有率を挙げているが、これらは測定しやすい一方で、本当にこれだけで妊産婦や乳幼児の健康づくり全体を十分に評価できているのか疑問に感じる。また、妊産婦の健康づくりについての評価も含まれていないのではないかと。アウトカムとして最終的に何が見えるのか、この2つの指標からではわからない。

【事務局】

主観指標と客観指標がある中で、当初は市民意識調査で、市民の生活が最終的にどうなったかを主観指標として、そしてそれをアウトカム指標として設計している。

今回の議論では、市民に問うべき質問というものを、改めてこのみんなでめざそう値とするかどうかということで、今おっしゃっていただいたような客観指標、アウトプットの部分だけではなく、成果指標として市民意識調査の中で改めて聞くべき内容を設定できれば、アウトカムとして成立するのではと思っている。そういう意味でも今回の議論の中で、アウトカムが市民意識調査の問うべき内容として合致しているかということも一つの議論かと思っている。

一定、アウトプットと言いつつも、結果としてアウトカムに近い指標もあると考えている。アウトカムを設定できているかどうかあわせて、議論をいただきたい。

【会長】

みんなでめざそう値については、客観的な指標を目標値として取った方がわかりやすく、仕事もしやすいということもある一方で、実際に市民生活に本当に効果があったのかというのは市民の方の判断、あるいは具体的な市民の皆さん方の動き方でわかることもある。そのために、アンケートによる主観指標も含めて、めざそう値にしている。

客観指標でも、アウトカムに近い指標か、ただ単に目標に向けた作業の途中段階での活動量だけを測り、実際に成果や効果を図っていないアウトプット指標か、という議論は確かにあろうかと思う。また、数値化しやすいものとは、活動量や投入した金額で表しやすいということもあり、アウトプット・アウトカムの整理、あるいはどういう指標を取りやすい・取りにくいということがあり、苦勞しておられるところはあろうかと思っている。私どもとしてはめざそう値なので、アウトカム指標をできるだけ選び、数値目標についてもそれに近いものを選んで

いきたい。

そのあたりぜひ委員からも、これらの指標の目標値として適切なものや、主観指標として用意されている市民意識調査について聞いておかなければならないこと、これらについてご意見をいただきたい。

【副会長】

資料1の1ページ、No.7

「A. 幼児人口における発達相談実施率」とあるが、実施数という実数ではなくて率で計算している。分母が変動するため、率で計算しているのではと思っているが、理由を確認したい。幼児人口が分母になっていると、幼児人口が減ることによる変動を防ぐために率で計算しているのではと推測している。

資料1の3ページ、No.54

「B. 市公式 Instagram のフォロワー数」について、かつては SNS だったが、Facebook や X、LINE など、いろいろな SNS がある中で、Instagram に絞っている理由は何か。若者に対して届けるということで Instagram に絞っている、という解釈で良いか。

【事務局】

「率」については、委員お見込みのとおりで、分母が変動することによる影響が出ないように設定している。

フォロワー数については他の SNS も対応できそうなところを、なぜ Instagram に絞ったのかを確認する。

【副会長】

理由があればそれで良い。理由がなく、たまたまこうなっているというのは一番危険なので、それぞれ選んだ理由、それから実数ではなくて率で記載している理由が明確にあり、それが共有できていたら良い。特に我々も SNS で数値を追うときに、市の情報をなかなか若者に見てもらえないという理由で、若者がよく使っている Instagram で代用するののも一つかと思う。SNS にはそれぞれの特性があるので、そのあたりの理由が明快であれば良い。

【委員】

資料2-2の2ページ、No.26

「想定される公民の役割（行政）」のところで「あらゆる分野において男女がともに参画できる環境を整えるとともに」とあるが、最近アンケートの選択肢にも、「男」、「女」、「答えたくない」等がある。男女に限らず、「あらゆる分野において性別にとらわれることなく参画できる環境を整えるとともに」としてはどうかと思うがいかがか。

【会長】

最近「LGBTQ プラス」とよく言われている。男女だけではない、様々な性的な自意識をお持ちの方々がたくさんいらっしゃるので、このあたりもきちんと踏まえた人権意識に基づいた共同参画が必要だというご意見をいただいた。

ここに記載されている内容は、市の男女共同参画の計画に由来するものと思っているが、事務局で見直しの余地があれば検討していただきたい。

【事務局】

「男女」の表現については、同じ意味で書き換えが可能か検討する。また、その隣の列に記載している「想定される公民の役割（事業者・団体・地域など）」にも同じ表記があるので、あわせて検討する。

【会長】

事業現場、就労の問題で考えていくと、どうしても男女格差が残っているところもある。可能な範囲でお願いしたい。

【委員】

資料1の1ページ、No.20

「高齢者の活動を支援する担い手をサポートする」という表現について、理解はできるが、なぜ、直接支援しないのかと率直な疑問を感じる。単純に「高齢者の活動を支援する」でもいいのではないか。

【委員】

その点については、例えば「いきいき百歳体操」等の自主体操が各地域で積極的に行われている。DVDのセッティングや、自主体操だけで飽きないように、違う内容のことを実施するために、担い手の方を募集してサポートしてもらっていたと思う。そういう意味があつての表記かと思うので、新たな市民ボランティアの育成をしていこうかという意味合いであることを補足しておきたい。

【事務局】

その点も含めて確認する。

【委員】

今回はペンディングになった件、3つの視点の横ぐしの話だが、説明では時間的に間に合わなかったということだったが、今回第2期の策定を進めており、4年後にはまた同じような評価が出てくる。その時には何らかの形で間に合わせられるよう、横ぐしを通して評価する仕組みをぜひ作って欲しい。横ぐしをさすために3つの視点を定め、基本構想にもしっかりと位置づけているので、個別の施策がどう動いたかだけでなく、それが連携されているかどうかをちゃんと測ってこそ、いわゆる横連携の評価ができると思う。

時間がかかったとしても、ここにもKPIやKGIのようなものを設定しても良いのではないかと思ったので、第2期基本計画策定に向けた見直しが落ち着いた後にでも、しっかりと時間をかけて議論していただきたい。

【事務局】

検討しようと考えてはいるものの、どのような指標を設定したらいいのかも見えず、非常に難しいと感じているところである。

【副会長】

アウトプット指標やアウトカム指標の内容とも関わると思うが、きちんと要因分析ができて、何をどう動かせば成果が出るのかをフィードバックしながら施策を展開する、それがいわゆるEBPM、証拠に基づく政策展開だと思う。そういう意味では、横ぐしをさすことでさらに複雑になるので、要因のモデリングがきちんとできないと何がゴールになるかということも見えてこないと思う。いわゆるロジックモデルをきちんと作成して、その数値を追える形になってこそゴールも見えてくると思う。

この作業は他の行政機関の方も苦手だと実感している。だからこそ、一緒に考えさせてもらっても構わない。この4年間で作り上げていくことは不可能ではないと思っている。

【会長】

ご提案いただいたところ、次年度以降のことになるので事務局でもぜひ検討をお願いしたい。議論にあがった、大きな領域である3つの視点と5つの基本目標について、この縦横がきち

んと繋がっていないとそれぞれの施策が生きてきているかどうか分からないというところもある。この点についてはもう一度、どんな背景要因があり、そして要因にどういう働きかけをすることでどういう成果が生まれ、その結果具体的な効果がどう生まれていくのか、といったところを筋道として立て、そしてその中で指標化できるものは数値で成果を図っていく。そのような発想をもう一度整理していく。この基本構想の3つの視点と5つの目標がどう組み合わせられて、実際の基本計画のそれぞれの事業に連動して成果を出したのかが見えてくると良いのではないか。このあたりは今後の検討課題ということとしたい。

【委員】

資料1の2ページ、No.24

もともと「市民病院の紹介患者数」があり、それを「紹介患者率」に変えている。これは先ほどの数を率に変える話と同じかと思っているが、それ以前に、市民病院への紹介数が多い方、紹介率が高くなる方が良いように見える評価指標となっている。背景として、大型病院で直接初診を受けるのではなく、かかりつけ医（近所の診療所）で受診し、もっと大型病院で受診しないといけない状況になったら紹介を受ける、というのが基本的な診療の流れだと思っている。そうすると、この評価指標は診療所の手には負えない病気の数が増えれば増えるほど、この値が増えていくロジックであり、それが市民にとって良いことなのかがよくわからない。目標値として、紹介数が低すぎるからもう少し適切な数値をめざしたという背景があるのだろうと思っているが、この指標だけを見ているとめざしているもののイメージがつかづらかったので、教えていただきたい。

【事務局】

きちんと連携が図れているかの指標として設定していたはずだが、いただいたご意見も踏まえて、背景等をもう一度確認する。

【委員】

前回、参考資料でみんなでめざそう値の経過を提示されているが、目標値の設定理由が曖昧だと感じる。「市民病院の紹介患者数」の目標値を1万1000人とする理由が「過去3年の平均値に基づき、設定した」とされている等、何をめざしているのか、どうなれば良いのかわかりにくい数字が多いと思っている。そのあたりを今日いただいた意見によって見直していけば、もう少しわかりやすくなるのではないか。

最初に話題で出ていた虫歯の件についてもそうだし、市民意識調査においても、「岸和田は子どもを生き育てやすいと感じている市民の割合」が年々下がっているような状況をどうするか、というアンケート調査をされる予定なのかどうかということもあわせて教えていただけたらと思う。5月に実施される市民意識調査の項目の内容に、このあたりをどの程度検討されているかをわかる範囲で教えていただきたい。

【事務局】

市民意識調査による主観部分については、これまでと同様に聞くつもりであり、今のところ変える予定はない。なぜ下がってきているのかを深掘りして調査することは、この市民意識調査では考えていないが、下がってきているから問題だということになれば、担当課も交えて考えないといけない部分になると思っている。

【委員】

全体を通じてみんながめざそう値を考えると、こういったベースを分析されているのか不安を感じる点が多い。ひとつひとつの数字がどうなっているという分析のことを確認している

のではなく、こういうことを踏まえてめざそう値を設定しているのか、そこがきちんと分析されているのかと思うところが多いと感じている。

【事務局】

みんなでめざそう値の項目自体は、例えば国の統計情報などの比較に使われる情報をもとに、他市と比較ができるようなものや、国が認めている数字を使うようにしている。そこには一定の信頼性はあると思っている。

一方で、目標値の設定については非常に難しく、国の目標やそれまでの大阪府の目標、以前の市の目標のような現実の値なども踏まえて設定しているので、完全な理想を設定できていないのが現状である。

【会長】

めざそう値の客観的な数字については、基礎的な数値としてこれまでの統計や実績で確認できたものがベースになっている。どういう目標にしていくかは、私たちのここでの計画づくりで理想の数字を提示していかなければならないが、同時に次の4年間でできるものという制約もあるので、そこに向けて市の目標であり、逆に府の目標も勘案しながら、この計画の中での目標値を決めていくことになる。新しい年度に入って、実際に基準値や目標値を具体的に出していけないといけないので、改めて委員からご意見をいただきたいと思っている。

【副会長】

この施策評価は4年に1度、この機会に実施しているのか。それとも毎年実施しているのか。

【事務局】

施策評価は毎年実施している。

【副会長】

その施策評価の際、このめざそう値では評価が追いかけられない、という意見が出るか。

【事務局】

意見は出てこない。

【副会長】

一旦めざそう値を設定すると、その数字をただ追いかけていだけになっていないかと思っている。なので、指摘をすると「こう変える」という案はたくさん出てくるが、担当課の側から「この数字は追いかけにくいからこう変えよう」という案が出る場所がもっとあっても良かったのではと思う。これでは施策評価のときに、めざそう値をしっかりと追いかけていくことができているのではないかという気がしている。

他市では、総合計画審議会が毎年開催され、審議会と一緒に施策評価するところもある。そうすれば毎年審議会と担当課が、めざそう値が伸び悩んでいる要因や、設定した値の分析について議論できている。そのため、次の基本計画の見直しときにはめざそう値そのものを変えようという議論が出てくる。

4年に1度の議論だけではなく、毎年外部委員から意見が求められるような評価システムがあれば、チェック機能として働いてくるのではないかと思う。評価システムそのものの見直しの必要性についても今回の議論で見えてきたのではないかなと思うので、ぜひ検討いただきたい。有効に機能する評価システムの構築を期待している。

【委員】

みんなでめざそう値を設定して、この総合計画を立ててから、どれぐらいの年月が経ったのか。昔からいろいろ計画があったかと思うが、めざそう値を決めてそれをクリアするような、

特に PDCA をまわす形として、どれぐらいの年月が経ったのか教えていただきたい。

【事務局】

今の計画が第5次で、第4次策定の2012年には設定していた。

【委員】

今おっしゃったことは基本的なことだと思っている。

初めて岸和田市を知ってから60年近く経過するが、良い点や悪い点も含めて随分変わったと感じている。今の岸和田市が盛り上がっていないのは、直近ではコロナも災いしていると感じる。あわせて何度もこの基本計画を読みながら思うのが、基本計画が市民の感覚にどれだけ入っているのかということである。岸和田市がどれだけ変わったのかを見つけることがある意味では大きなめざそう値で、ここを手入れしていこうとかいうところは、審議会へ関わろうと思った時点から考えている。そういう意味では、いつ頃から計画がどうなってるかということころを丁寧に調べ直して欲しいと思う。この60年の間に岸和田市が盛り上がり下がりしているのは、これが作用していると思っている。それほどに大きな計画を市職員は考えられてきたと思っている。

自身も「まちネット」に関わっているが、当時の計画を作ったメンバーと相当な時間議論した。そういう動きが今の岸和田にあるかと考えると、いろいろな意味で寂しい思いをしている。市によっては相当変化しているところもあり、頑張っている市職員を応援しないといけない、という話もしている。

そういう要素で資料を見ていると、出ているこの数値はここで出さなくても全国平均から取れるものもあると感じる。すぐ出る数字であると同時に、岸和田市の基準としてはどうなのだろうかと思う。そういう見方で、これからこのみんなでめざそう値について審議会で議論することになるが、この量を2年間で作り上げるのは大変だと思う。そして他人ごとではないと思っている。

市民病院への紹介率を例にしてみても、実際の数を把握しているのであれば、数字的にはもっと早く出ると思う。「各主体をつなぐ取組や公民連携の取組例」も単純だし、みんなでめざそう値はすぐにわかる数字ではないかと思っている。

道路管理についても今回追加があったが、すぐにできることなのではないか。建設部にもう少ししっかりやって欲しいと思っている。補修はしているが、もっと補修しないといけないところが見つかるのではないか。

もっと岸和田市を活性化するための要素があると思う。この審議会で、みんなでめざそう値を見つけただけで終わるのではなく、ここへ集まっている委員もいろいろな立場の方がおられるので、みんなでめざそう値についてももう少し丁寧に話す時間があればと思う。

【会長】

これからみんなでめざそう値の基準値や目標値について、すでに設定されているものも含めて、改めて皆さんと一緒に考えていきたい。

そして、今お話いただいたように、全体として岸和田市が元気なまちになっていく、そういう目標になっていけば良いが、大きな目標としては大切だが、それぞれの施策が繋がってるかどうかは、最初に副会長からご指摘もあった横ぐしがきちんとさせているかどうかにも関わってくる。ここは判断しにくいところではあるが、来年度以降、評価の仕組みやそれぞれの事業の関連性の持たせ方の仕組みも考えていかないといけないと思う。

【委員】

どんな立場の人同士でも話し合いができて、資料は誰が見てもわかるような中身にして欲しいとも思う。それぞれの立場では専門の視点も必要なのはわかるが、誰でも話せる場を岸和田市にも求めている。あまり難しい言葉でない平易な言葉で話せるようお願いしたい。

【会長】

計画に長い間、慣れ親しんでいるとつい自分たちの言葉で語ってしまうことがある。ただ一方では、多少専門的な用語を使わないと収まりがつかないところもあるので、そのあたりはご容赦をいただき、また皆さんにとっての勉強の機会にもなればと思う。

【委員】

市民として何ができるかというところで、デザインの考え方でいうと「ボトムアップで考える」や「バックキャストで考える」等があるが、今回の計画を作る中でもその視点はすごく大事ななと思いながら関わっている。みんなでめざそう値について、もっとボトムアップで議論するような場があれば良いと思う。一方、事務局も忙しい中で作業し、さらには審議会に対する予算もあって開催できる回数が限られている等、いろいろな制約もあると思うところ、せっかく委員として携わっているのもう少し頼っていただけたらと思う。

【会長】

限られた時間や回数の中でしっかりとご議論、ご意見をいただきたい。ボトムアップのところについては、この審議会を進めていく上で、すでに市民参加として意見聴取をしてきた経緯もあるので、ベースにはなっている。そこでの議論がどこまで反映するのかの部分についても、事務局でいろいろ検討されて今回の案が出てきている。市民参加のご意見等も踏まえて、この審議会でもご意見をいただきたい。

【委員】

資料1の1ページ、No.7

先ほどもあったが、Aの指標は発達相談受診率としており、これは幼児人口が減っていくから比率にした方が良い、という話であったと思うが、その議論で言うならば、Bの総合通園センター受入待機児童数について、比率にしない理由は何か。

【事務局】

待機児童に関してはゼロをめざさないといけない中で、受入のボリューム自体を、過剰にならないラインも考えながら全体量を決めている部分になるので、ここに限らず、保育所や学童等の待機児童に関する指標は、数で設定している。

【委員】

子どもが減っているから、待機児童が減るのではないと思う。共働き夫婦やシングルで生活している親御さんが多く、保育所についても何回も申し込んでようやく入所できたという話を聞いたり、現実的には待機児童数が減っているかどうかは率だとわからない。少し前まで「子ども・子育て会議」にも出席していたが、なかなか数が減っていると言える現状ではない。これからさらに働く人が増えると、待機児童はより減らないと思う。目標にも「子育てしやすいまち」とあるので、事務局が言っていたようにゼロをめざすべきだと思う。

【会長】

待機児童数のめざそう値はゼロということで、それをどのように具体的に実現していくのかについて、これから個別の計画作りをしていくことになろうかと思う。

【委員】

資料2-1の3ページ、No.45

今回は対応策の追記もされているところ、現在活動している中で問題が多発して困っている。「現状と課題」のところで書かれている不法投棄や落書きに関してであるが、神於山の展望台に設置している地図に酷い落書きをされ、消すことができずに撤去した。撤去した後に、パノラマ図を確認できるQRコードと、「マナー違反」「取り締まり対象」であることの注意書きを設置したが、その上にさらに落書きされているような状況である。

加えてたき火の跡等、モラルの向上や意識の向上では済まされないような事例も起こりつつある。

「現状と課題」にはマナー向上の意識を持つとか、問題を生じさせないために積極的な取組を進めるといった文言に終わっているところに、対策については書きようがないところもあるかもしれないが、過激化する今の実態を踏まえて何かもう一言入れられれば良いと思う。

【会長】

事務局でももう一度担当課へ確認し、具体的な対応策はないか検討いただければと思う。

【事務局】

対応に関しては担当課へ伝える。計画への記載に関しては、他の項目のところでも申し上げているが、具体的な内容をどこまで書けるかというところの判断になる。

【会長】

重大な問題提起をいただいたので、担当課にも施策あるいは目標値として位置づけていくことができるのかということについて、確認だけでもお願いしたい。

おおよそ今日は、みんなでめざそう値についての意見が出たので、これを踏まえて次年度の計画策定に向けて、進めていただくことになる。

市民意識調査については、本日の意見を踏まえて設問等、検討すべきところを改めて事務局で確認いただければと思う。

次年度に向けては、基本的には本日示されたみんなでめざそう値の修正案を前提に議論を始めるが、基準値と目標値の設定について、事務局はこれまでのデータも確認した上で、委員がきちんと議論できるように適切な準備をしてもらえればと思う。

各主体をつなぐ取組や公民連携の取組例の変更案については、本日のところはあまり大きな意見がなかったが、あくまでも例なので、また何か気づいた点があれば事務局に連絡してもらえばと思う。

その他、本日の議論にこだわらなくても構わないので、この総合計画の審議に関連して各委員から何かあればお願いしたい。

【委員】

個別計画で関わっている男女共同参画推進プランや地域福祉計画というところでは、なかなか計画に謳ってあることが現実にはできてないということが気になっている。

【会長】

基本計画では、それぞれの個別目標の方向性の中で関連する個別計画を掲載している。総合計画では全体を見渡し、市全体でどういうバランスでこれからの市政をみんなで動かしていくか、という大きな目標を立てている。

その中で男女共同参画推進プランや地域福祉計画もそれぞれ位置づけられていくということになり、当然この総合計画の中でそれぞれの方向性が出されている。そのようなイメージを持って、個別計画の策定等は進めてもらえば良いと思う。

総合計画のところでしっかりと方向性を出しておかないと、個別の計画がバラバラの方向性

になってしまっはいけない。そのためにこの総合計画で大きな枠を定めている、という考えでご審議をいただければと思っている。

【委員】

広報きしわだでも案内しているが、次期地域福祉計画を策定している中で、今後住民懇談会を実施する予定である。1月下旬から市民アンケートを実施し、集計結果をもとに広く市民の方に参画いただき、地域福祉の課題を共有しながら方策を考えていければと考えている。

【会長】

こういった個別計画を作っていく中でも、総合計画の審議に必要なアイデアというのが、得られるのではないかと思う。また成果等も報告いただけるような機会があればと思っている。

■次第3について事務局から説明

■意見・質疑

【会長】

案件は以上になる。次回は調整の結果、7月13日（月）の10時から開催する。
以上で本日の審議会は終了とする。

以上

■次回審議会の予定

令和8年7月13日（月）10時から12時（場所未定）